大芝高原森林づくり実施計画（案）

南　　箕　　輪　　村
大芝高原森林づくり協議会

村民・利用者のみなさんに向けて

1　アカマツの伐採

明治 28 年（1895 年）に南箕輪村尋常小学校の福澤桃十先生が植林を推奨し、10ha に約 1 万本のコナラを植林したことが、大芝高原の森林の始まりでした。129 年の歳月が経ち、現在の大芝高原は、南箕輪村の村木であるアカマツが上層を優占し、全国でも稀な大径アカマツが相観を成す平地林となっています。先人たちの努力により、アカマツ、ヒノキなどが植林、保育、保全されてきましたが、松くい虫被害の発生に至ってしまいました。平成 18 年（2006 年）から樹幹注入によって松くい虫被害からアカマツを守ってきましたが、樹幹注入もアカマツの生理的に限界（樹幹注入にも枯死リスクがある）を迎えています。さらにはヒノキや広葉樹といった下層木の成長に伴い遷移の進行が進み、衰退傾向が明確に表れる状態となっています。

これまで大芝高原のシンボルであったアカマツは、松くい虫による被害拡大と遷移の進行によって衰退しています。早ければ令和 17 年（2035 年）までに衰退・消滅する可能性が予測されています。放置すれば松くい虫の蔓延につながり、村内の他のアカマツに被害を拡大させるとともに、枯損木による大芝高原の利用者のみなさんに倒木や落枝による被害を発生させてしまう可能性が危惧されます。

この現状から、大芝高原のアカマツを伐採することとしました。枯れた木だけでなく、多くのアカマツを伐採します。アカマツの転換期を迎えていることをご理解ください。

2　森林景観の変化

大芝高原は半世紀以上アカマツが優占する景観を成していましたが、アカマツを伐採するため、大芝高原の景観も大きく変わります。日常的に見ていた大芝高原の森林が大きく変わるため、景観に違和感を持たれるかもしれませんが、村では常に大芝高原の森林・樹木を管理し、大芝高原に適合した樹木構成の森林を育てていきます。

景観の変化やゆっくりした森林の姿の変化について、本計画で解説します。

3　50 年後の大芝高原

本実施計画は令和 12 年（2030 年）までの計画です。アカマツの伐採により、大芝高原を利用されるみなさんに安全で、憩いを提供する必要のある区域から 50 年先を想定した森林を再生します。

森林は一日にしては成立しませんが、50 年先を目指した森林づくりを推進します。

目　次

村民・利用者のみなさんに向けて

第１章 総則 ・・・・１
　１−１ 計画の目的 ・・・・・・・・・・・・１
　１−２ 計画の理念 ・・・・・・・・・・・・１
　１−３ 計画の位置づけ ・・・・・・・・・・・・１
　１−４ 計画の期間 ・・・・・・・・・・・・２
　１−５ 森林協議会と大芝高原森林づくり協議会の役割 ・・・・・・・・・・・・２

第２章 森林の現状 ・・・・３
　２−１ 大芝高原の森林 ・・・・・・・・・・・・３
　２−２ 森林の状況 ・・・・・・・・・・・・４
　２−３ 大芝高原の利用状況 ・・・・・・・・・・・・９

第３章 期待される森林のあり方 ・・・・１１
　３−１ 大芝高原の多様な森 ・・・・・・・・・・・・１１
　３−２ 多様な利活用 ・・・・・・・・・・・・１４
　３−３ 人と森のかかわり ・・・・・・・・・・・・１５

第４章 取り組むべき課題とその取り組み方法 ・・・・１９
　４−１ 森をつくる ・・・・・・・・・・・・２０
　４−２ 森をつかう ・・・・・・・・・・・・２２
　４−３ 森とつなぐ ・・・・・・・・・・・・２５

第５章　森をつくる　～実施計画～ ・・・・２７
　５−１ 整備の基本 ・・・・・・・・・・・・２７
　５−２ ゾーン別の目標林型 ・・・・・・・・・・・・２８
　５−３ 整備区域と区画 ・・・・・・・・・・・・３４
　５−４ 実施計画 ・・・・・・・・・・・・３６

第６章　実施に向けて ・・・・４３
　６−１ 実施計画の推進 ・・・・・・・・・・・・４３
　６−２ 住民参加の森づくり ・・・・・・・・・・・・４４

村民アンケートの結果や森林整備に関する専門的な内容については、別冊の「森づくり解説・資料編」に記載します。